

イエスのことば 第53回

イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。アブラハムが生まれる前から、『わたしはある』なのです。」 (ヨハネ 8:58)

□文脈の確認

1. イエスの公生涯を起承転結の四部構成に分け、背景を理解しながら、イエスのことばを一つひとつ学んでいる。
2. 転の部、弟子訓練。十字架まで、1年余。その前半の約6か月間において、イエスは、異邦人の地域へ4回、旅行した。異邦人地域への4回の旅行は、退避(リトリート)と休息の時であったと同時に、弟子たちの訓練を目的とした。
3. リトリートから帰ってきた後、紀元29年秋10月の仮庵の祭りから冬12月の宮きよめの祭りまで、約3か月の間に起きた出来事
 - (1) 仮庵の祭りの前
 - ① イエスの家族(弟たち)からの突き上げ(ヨハネ7:2~9)
 - ② エルサレムへの旅(ルカ9:51~56、ヨハネ7:10)
 - ③ 旅の途上で、弟子たる者の心得についての教え(ルカ9:57~62、マタイ8:19~22)
 - (2) 仮庵の祭りにおいて 指導者層との衝突
 - ① 仮庵の祭りでの衝突【全体的な流れ】(ヨハネ7:11~52)
 - ② 仮庵の祭りの期間中の個別的な衝突(ヨハネ7:53~10:21)
律法をめぐり、光をめぐり、メシアの神性をめぐり、
生まれながらの盲人の癒やしをめぐり、「羊飼い」(メシア預言)をめぐり
 - (3) 仮庵の祭りの後(ルカ10:1~13:21)
 - (4) 宮きよめの祭りにおいて(ヨハネ10:22~39)

仮庵の祭りでの個別的衝突、メシアの神性をめぐり

ヨハネ8:21~59

□アウトライン

- A) メシアは、人が信じるべき、真の信仰の対象である(ヨハネ8:21~30)
- B) メシアは、真の解放者である(ヨハネ8:31~59)
 1. 罪からの解放者(ヨハネ8:31~40)
 2. サタンからの解放者(ヨハネ8:41~50)
 3. 死からの解放者(ヨハネ8:51~59)

A) メシアは、人が信じるべき、真の信仰の対象である (ヨハネ 8 : 21~30)

21 節 a イエスは再び彼らに言われた。

- 「再び」・・・仮庵の祭りで起きた個別的な衝突が 7 : 53 から記されており、7 : 53~8 : 11 では「律法をめぐる」衝突の記事、8 : 12~20 では「光をめぐる」衝突の記事があった。8 : 21 の「再び」とは、次の衝突「メシアの神性をめぐる」に場面が移ることを意味する。

「光をめぐる」衝突では、「わたしは世の光である」というたとえ話が語られた。ここでもイエスは引き続き、たとえ話を用いる。

たとえ話を使つての教え方は、第二部、承の部の結末でイエスが指導者層からメシアではないと拒否されてから、一貫している。公の場で語るとき、イエスはもはや明確な教えはせずに、たとえ話を用いた。そして弟子たちには、たとえ話についての解説を加えた。

弟子たち以外の聴衆には、たとえ話だけを聞くだけなので、わかったようでわからない教え方である。ここでも実際、8 : 22、8 : 25 では、人々はイエスの話を理解できないでいる。

21 節から 30 節では、たとえ話を用いながら、イエスは次の 7 つのことを語った。それを通して、ご自身が神であり、真の信仰の対象であることを示した。7 つのうち、中心は 4 番。

1. イエスは人々がついて来ることができないところに行く

21 節 「わたしは去って行きます。あなたがたはわたしを捜しますが、自分の罪の中で死にます。わたしが行くところに、あなたがたは来ることができません。」

2. 人々は自分の罪の中で死ぬ

21 節 「わたしは去って行きます。あなたがたはわたしを捜しますが、自分の罪の中で死にます。わたしが行くところに、あなたがたは来ることができません。」

3. イエスと人々とは、出て来たところが違う

23 節 「あなたがたは下から来た者ですが、わたしは上から来た者です。あなたがたはこの世の者ですが、わたしはこの世の者ではありません。」

- 「下」=地、この世。この世の支配者はサタン。
- 「上」=天

4. 人々がもし永遠のいのちを得たいなら、イエスを、神が人となられたお方であると信じなければならない

24節 それで、あなたがたは自分の罪の中で死ぬと、あなたがたに言ったのです。わたしが「わたしはある」であることを信じなければ、あなたがたは、自分の罪の中で死ぬことになるからです。」

- 「わたしはある」・・・モーセに啓示された神の名。出3:14 神はモーセに仰せられた。「わたしは『わたしはある』という者である。」また仰せられた。「あなたはイスラエルの子らに、こう言わなければならない。『わたしはある』という方が私をあなたがたのところに遣わされた、と。」

5. イエスは、将来において、人々をさばく立場に立つ。神だからである

26節 a わたしには、あなたがたについて言うべきこと、さばくべきことがたくさんあります。

6. イエスは、真実な方、すなわち神から遣わされた。イエスが語ることは、神からのメッセージである。真実とは、約束したことを必ず守るお方、という意味。

26節 b しかし、わたしを遣わされた方は真実であって、わたしはその方から聞いたことを、そのまま世に対して語っているのです。

7. 人々はイエスを十字架につけるであろう。たとえ話なので、十字架とは明確に言わずに、「人の子を上げる」と表現。そのとき、人々はイエスを神であると知る。

28～29節 「あなたがたが人の子を上げたとき、そのとき、わたしが『わたしはある』であること、また、わたしが自分からは何もせず、父がわたしに教えられたとおりに、これらのことを話していたことを、あなたがたは知るようになります。わたしを遣わした方は、わたしとともにおられます。わたしを一人残されることはありません。わたしは、その方が喜ばれることをいつも行うからです。」

復活し、天に昇る

イエスのこの一連のたとえ話を聞いた人々の反応は、どうであったか。彼らの大半は、理解できなかった。しかし、彼らの中の一部の人たちの心の中には光が差し込んで、理解でき、イエスを信じた。イエスが仮庵の祭りに来て語った目的は、このためであった。

30節 イエスがこれらのことを話されると、多くの者がイエスを信じた。

B) メシアは、真の解放者である (ヨハネ 8 : 31~59)

1. 罪からの解放者 (ヨハネ 8 : 31~40)

- ① イエスを信じた人たちに向かって、しかしまわりに聴衆もいるのでたとえ話で

31~32 節 イエスは、ご自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「**あなたがたは、わたしのことばにとどまるなら、本当にわたしの弟子です。あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。**

33 節 彼らはイエスに答えた。「私たちはアブラハムの子孫であって、今までだれの奴隷になったこともありません。どうして、『あなたがたは自由になる』と言われるのですか。」

- 信じたばかりの人たちは、まだパリサイ派の教えがしみついている。ユダヤ人はアブラハムの子孫であり、神から選ばれた特別な民という意識は、パリサイ派の教えの中心。罪の問題と気づかずに、奴隷か自由民か、の問題と勘違い。

- ② 信じた人だけでなく、まわりにいる、信じていない聴衆にも向かって

34~36 節 イエスは彼らに答えられた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。**罪を行っている者はみな、罪の奴隷です。奴隷はいつまでも家にいるわけではありませんが、息子はいつまでもいます。ですから、子があなたがたを自由にするなら、あなたがたは本当に自由になるのです。**

- いつまでも to the age : アイオン=期間、満期、メシアの王国を指す意味も

37~38 節 わたしは、あなたがたがアブラハムの子孫であることを知っています。しかし、あなたがたはわたしを殺そうとしています。わたしのことばが、あなたがたのうちに入っていないからです。

- ③ 聴衆からのやじと、それに対応して

アブラハムのわざ・・・
神の約束を信じた。それで、義と認められた (創世記 15 : 6)

39 節 a 彼らはイエスに答えて言った。「私たちの父はアブラハムです。」

39 節 b~40 節 イエスは彼らに言われた。「あなたがたがアブラハムの子どもなら、**アブラハムのわざ**を行うはずです。ところが今あなたがたは、神から聞いた真理をあなたがたに語った者であるわたしを、殺そうとしています。アブラハムはそのようなことをしませんでした。

2. サタンからの解放者（ヨハネ8：41～50）

① サタンを人間の父と呼ぶたとえ話と、聴衆の反応

41節 「あなたがたは、**あなたがたの父**がすることを行っているのです。」
すると、彼らは言った。「私たちは淫らな行いによって生まれた者ではありません。**私たちにひとり父、神がいます。**」

- イスラエルの民は、民族として「神の子」（出4：22～23）。その意味では、ここで聴衆が、神を「私たちの父」と呼ぶのは正しい。
- しかし、イエスが教えようとしているのは、民族としてではなく、一人ひとりが、信仰により霊的に救われてサタンの支配から脱し、神を父と呼ぶ関係になっているかである。そのことをイエスは次に指摘する。

42～44節 イエスは言われた。「**神があなたがたの父であるなら、あなたがたはわたしを愛するはず**です。わたしは神のもとから来てここにいるからです。わたしは自分で来たのではなく、神がわたしを遣わされたのです。あなたがたは、なぜわたしの話が分からないのですか。それは、わたしのことばに聞き従うことができないからです。**あなたがたは、悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと思っています。**悪魔は初めから人殺しで、真理に立っていません。彼のうちには真理がないからです。悪魔は、偽りを言うとき、自分の本性から話します。なぜなら彼は偽り者、また偽りの父だからです。」

② イエスが真理を語っていることの証しは、イエスがモーセの律法を完全に守っていることである。それを認めず、イエスを信じないのは、その人が神から出た者ではないからである

45～47節 しかし、このわたしは真理を話しているのに、あなたがたはわたしを信じません。**あなたがたのうちのだれが、わたしに罪があると責めることができますか。**わたしが真理を話しているなら、なぜわたしを信じないのですか。神から出た者は、神のことばに聞き従います。ですから、あなたがたが聞き従わないのは、**あなたがたが神から出た者でない**からです。

③ 聴衆の中からまた、やじが飛ぶ。それに対するイエスの応答

48節 ユダヤ人たちはイエスに答えて言った。「あなたはサマリア人で悪霊につかわれている、と私たちが言うのも当然ではないか。」

- ▶ サマリア人=シヨムロニ、シヨムロン (ある悪霊の名) からの派生語。イエスをサタンの子であり、悪霊につかれていると言っている。

49～50節 イエスは答えられた。「わたしは悪霊につかれてはいません。むしろ、わたしの父を敬っているのに、あなたがたはわたしを卑しめています。わたしは自分の栄光を求めません。それを求め、さばきをなさる方がおられます。

3. 死からの解放者 (ヨハネ 8:51～59)

- ① たとえ話で死からの解放宣言、聴衆の反応「アブラハムも死んだのに」

51節 まことに、まことに、あなたがたに言います。だれでもわたしのことばを守るなら、その人はいつまでも決して死を見ることはありません。

52～53節 ユダヤ人たちはイエスに言った。「あなたが悪霊につかれていることが、今分かった。アブラハムは死に、預言者たちも死んだ。それなのにあなたは、『だれでもわたしのことばを守るなら、その人はいつまでも決して死を味わうことがない』と言う。あなたは、私たちの父アブラハムよりも偉大なのか。アブラハムは死んだ。預言者たちも死んだ。あなたは、自分を何者だと言うのか。」

- ② たとえ話で復活の宣言、聴衆の反応に対して神性宣言

イエスの復活

54～56節 イエスは答えられた。「わたしがもし自分自身に栄光を帰すなら、わたしの栄光は空しい。わたしに栄光を与える方は、わたしの父です。この方を、あなたがたは、「私たちの神である」と言っています。あなたがたはこの方を知らないが、わたしは知っています。もしわたしがこの方を知らないと言うなら、わたしもあなたがたと同様に偽り者となるでしょう。しかし、わたしはこの方を知っていて、そのみことばを守っています。あなたがたの父アブラハムは、わたしの日を見るようになることを、大いに喜んでいました。そして、それを見て、喜んだのです。

わたしの日=信者を栄光の体に復活させる日

57～59節 そこで、ユダヤ人たちはイエスに向かって言った。「あなたはまだ50歳になっていないのに、アブラハムを見たのか。」イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。アブラハムが生まれる前から、『わたしはある』なのです。」すると彼らは、イエスに投げつけようと石を取った。しかし、イエスは身を隠して、宮から出て行かれた。